平成29年2月10日

加西市議会議長　三宅　利弘　様

調査研究実施報告書

会 派 名　自民の風・誠真会
代表者名　黒田　秀一

下記の通り、行政視察を実施したので、報告します。

記

1．調査年月日
平成29年1月26日（木）～1月27日（金）

2．調　査　先
広島県尾道市、山口県下関市

3．参加者氏名
黒田秀一、植田通孝、丸岡弘満、松尾幸宏
※加西の新しい未来を創る政策研究会と合同で視察

4．研究目的及び内容
①広島県尾道市（1月26日（木）13：15～14：45）
おのみち幸齢プロジェクトについて（詳細は別紙）
福祉健康部高齢者福祉課介護管理係　西門専門員
尾道市議会事務局 田房局長
②山口県下関市（1月27日（金）10：15～11：45）
次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について（詳細は別紙）
指定管理者下関こども未来創造ネット 十河館長

5．添付書類
（1）視察行程表
（2）研修資料
（3）写真

以上

広島県尾道市

[視察項目]

おのみち幸齢プロジェクトについて

[目　的]

加西市の健康福祉施策についての調査研究

１．「おのみち幸齢プロジェクト」の背景と経緯

・尾道市の高齢化率は、国の平均より１０％程度高く、高齢化対策は一刻の猶予もない状況で、市長以下危機感を募らせていた。

・平成２５年９月、副市長の指示により、西門専門員（視察対応者）が中心となり、部署横断的に若手職員を集め、「尾道市超高齢化プロジェクトチーム」を立ち上げ、具体策の検討を始めた。

・わずか３カ月で提言書「超幸齢者社会おのみち」をまとめ、実現可能な施策を提示した。

２．プロジェクトチームによる提言内容

３つのテーマに１４事業を提案した。

「１．健康づくり（介護予防）」

①学校給食へ行こう！　②シルバーリハビリ体操

③アラ還ピック２０２０　④目指せ！ウォー王（KING）！

⑤出たもん勝ち

「２．高齢者の生きがいづくり」

⑥地域プロデューサー養成講座　⑦復活！「ばんこ」ミュニケーション

⑧結成！「ばんこ」ミュニティ　⑨幸齢者学校

⑩「幸齢者」保育士さん　⑪笑顔とどけ隊

⑫えんじゃないか農

※「ばんこ」…軒先の長椅子の意味。

「３．安心に暮らすための環境づくり」

⑬おのみち見守りネットワーク　⑭運転免許の返納推奨

特色

・「超高齢社会」のマイナスイメージ（介護を必要とする高齢者の増加）をプラスイメージ（地域で活躍する元気な高齢者が増加）に転換し、住んでよかったと思える価値観を創出。

・地域性や趣味・趣向に応じた多彩なメニューを提示。

・市役所の各課が連携して実施。

・親しみやすいように事業のネーミングにもこだわる。

３．実施について

①実施体制

・提言の中から着手可能な事業を市長が即断し、予算計上。

・事業の進行管理は企画部門がおこない、提言チームとは別の「プロジェクトチーム」を設置して事業推進。

・平成２６年度より実施。

②事業費（予算ベース）

平成２７年度…４,１５１万円　　平成２８年度…１,５７８万円

③実施事業

提言の⑭を除き、１３事業を実施。モデル地域で実施する事業と全市で進める事業と分けている。予算は一般財源から充てている（平成２８年度予算）。

（１）地域活動実践者育成事業　１４０万円

退職後の世代がスムーズに地域で活動できるきっかけづくりのためのプチ講座を開催。

（２）幸齢者学校　市からの負担なし

地域の人、関係者が連携・協力して地域力を高め、「健康寿命の延伸」「豊かな死を迎えること」について学ぶ。

※広島県の高齢者福祉大学校と連携して介護保険や認知症等の勉強会、講演会を開催。

（３）ええじゃないか農　３７万円

ヤギを活用した除草活動を通して、農作業による健康維持・癒し、生きがいづくりの創出を図るとともに、ヤギを介した地域交流の輪を拡大し、地域の活性化につなげる。

※山間部の６０歳以上を対象に「ヤギ除草モニター」として５件のヤギを貸出。ヤギ飼育のマニュアルを発行。

（４）高齢者の居場所づくり事業（復活！「ばんこ」ミュニケーション）　１００万円

地域住民や団体が主体的に設置・運営する高齢者の交流拠点づくりを支援し、高齢者の孤立防止と地域活動を促進する。

※４件の補助。２９年度までに３０カ所の設置を目指す。

（５）おのみち「今昔」域・活（いきいき）事業　１３０万円

保育所や放課後児童クラブ等において、高齢者の知識・知恵・経験等を子供達に継承するとともに、子供と高齢者の世代を超えた交流によ

り、高齢者の生きがいや子供達の豊かな成長の一助とする。

（６）ふれあい給食　市からの負担なし（実費負担）

高齢者が給食を児童と一緒に食べたり、授業で交流することにより、孤独感・孤食の解消を図り、生きがいの創出を目指す。

（７）シルバーリハビリ体操　２４７万円

シルバーリハビリ体操指導士を養成し、指導士が地域で体操を普及させることで、介護予防の推進を図る。

※新総合事業の先駆的な取り組みになり、指導する人も生きがいに。現在２６０名超。定期開催場所６８カ所、年間延べ２万人参加。

（８）幸齢ウォーキング推進事業～目指せ！ウォー王（キング）～　２５０万円

参加しやすい身近で地域性のあるウォーキングコースや各種コースの踏破ポイントに応じた報奨を設定することでウォーキングの習慣化を促し、元気な高齢者の増加を目指す。

（９）６０歳からのサイク輪（リング）　５万円

高齢者向けサイクリング大会を開催し、健康寿命の延伸、安全運転の習得、地域の魅力を再確認、地域住民との交流を図る。

（１０）黒崎水路いきいきロード整備事業　７００万円

河川敷の緑地を使用して、遊歩道や休息施設等の整備と維持管理を行うことにより、住民の健康づくりや憩いの場としての活用を促す。

（１１）出たもん勝ち　１８万円

健康寿命を促進するための対策として、外出促進のための情報提供を行うことで、心身の機能低下の予防、地域とのつながりや生きがいの創出、健康づくり関連施設やサービスの利用促進を図る。

（１２）アラ還ピック　５０万円

東京五輪に向けてスポーツ機運が盛り上がる中、高齢者の健康と運動の知識や体験を深める。五輪の年には「アラ還ピック２０２０」と題した全市的なシニア大会を目指す。

※すでに体育協会が実施。

（１３）認知症等高齢者見守りネットワーク事業　１４５万円

「おのみち見守りネットワーク」の充実を図り、地域全体で独居の認知症高齢者等を見守り支える包括ケアシステムを確立し、住み慣れたまちで安心して暮らせるまちづくりを目指す。

※見守り協力団体は４２６団体。登録者は１０３人。ＳＯＳメール登録延べ人数は２４００人超。

４．成果

①住民・企業の変化

・住民の健康長寿に対する意識が高まり、シルバーリハビリ体操やウォーキング、サイクリングなどへの参加意欲が向上。

・ＮＰＯの活動の活発化や各種団体の連携、健康イベントへの企業協賛など、民間や企業の「幸齢社会おのみち」の実現に向けた機運が高まっている。

②市役所や市職員の変化

・超高齢化対策を特定の部署で抱え込むのではなく、全庁的課題として捉えることができ、脱セクショナリズムの流れが生まれた。また、少子化や子どもの貧困対策のプロジェクトも立ち上がっている。

・若手職員の柔軟な発想を受け入れる職場環境が醸成され、職員のモチベーションの向上・意識改革が図られている。

５．今後の課題

①プロジェクトの成果検証

・数値的検証が必要である。

・介護の認定率も下がってきているが、当プロジェクトの成果によるものか長い目で見ていく必要がある。

②さらなる展開と仕掛けの必要性

・住民への周知・ＰＲなど、より多く住民を巻き込んでいく必要がある。

山口県下関市

[視察項目]

次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について

[視察目的]

加西市が将来計画している福祉施設（未来型児童館）に関する調査研究

1.「ふくふくこども館」の目的と概要

「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとした、無料で遊べる子育て支援施設となっています。市民の交流と子育て支援の拠点として、新築されたJR下関駅ビル内にオープンし、平成26年度は、約25万人の来園者がありました。

また、施設内では、未就学児と保護者が一緒に遊ぶプレイランドと多世代が交流することを目的とした交流スペース・クリエイティブランドやこども一時預かり室等の設備が備わっており、子育てにかかわる人に向けたサポートや地域ぐるみで未来を担う子どもたちを育てていくことを支える施設となっています。

2. 課題とテーマ

子育て家族をサポートし、多様な世代が交流できる市民活動の場をつくりあげることや下関の歴史や文化に触れ、愛郷心を育むきっかけとなる施設とすることとしています。

3. 館のデザインと特徴

親子で遊ぶプレイランドは、下関の海の中の設定とし、ふるさとである下関に愛着を持ってもらえるようにデザインのモチーフを下関ならではの生き物や名所などで構成しています。外光の入る明るい空間で、ゆっくりくつろげるような雰囲気を醸成するデザインになっており、交流スペースでは、下関ゆかりの詩人「金子みすゞ」の詩を壁にちりばめて、子育てに悩むお父さんやお母さんの応援となるようにやわらかなデザインでやさしく包み込むような空間になっています。

4. 実施について

①運営体制

（1）指定管理者：下関こども未来創造ネット（共同事業体）

・社会福祉法人 下関市社会福祉事業団

・株式会社 丹青社　事業開発統括部運営プロデュース部

・特定非営利活動法人 下関子ども・子育ちネット

（2）下関市こども未来部子ども家庭課と連携・協議・連絡・相談等あり

（3）指揮系統を明確化するために、平常の施設運営については、管理者が指揮・管理を行い、共同事業体の各担当部門及び関連部分が十分なサ

ポートやバックアップを行う体制にしている。

（4）全館スタッフ21名で、1日常時10名以上体制を取れる様にローテーションを組んでいる。土日は、13名～14名体制。

②事業費

（1）建設経費…約15億円

・設計、監理…約47百万円
・工事…約338百万円
・購入…約765百万円
・展示…約347百万円
・事務費…約5百万円

（2）管理経費（共益管理経費等含む）…約12百万円／年（H27年度）

・土地賃借料…約14百万円
・屋上借上料…約8百万円
・管理費（共益費）…約19百万円
・施設利用管理負担…約17百万円
・駐車場利用料…約2百万円
・指定管理料…約60百万円

③実施事業

（1）基幹事業を中心として自主事業も開催

・遊び、体験学習事業
・子育て家庭支援事業
・地域活力増進事業
・郷土文化伝承事業

4．成果

（1）オープン予定で想定していた来場者数を大きく上回り、県外各地からも利用者が多くある。

（2）子育てをしている家庭への幅広い支援や子育てに悩む保護者が安心して相談できる体制が整っているために、巡回や個別相談件数も増えている。

5．今後の課題

（1）利用者増による展示遊具などの補修・修繕費が増加

（2）相談件数増の結果、最低限のメンバーで運営している下関こども創造未来ネットの仕事が増加

（3）多目的室（貸室）や屋上などの利用率の向上

（4）下関こども創造未来ネットの人材確保

（5）ボランティアスタッフの拡充と確保

【所感　黒田秀一】

■尾道市　　おのみち幸齢プロジェクトについて

全国に先駆けて高齢者対策に取り組んでいる様子がわかりました。例えば、ふれあい給食事業では、高齢者が給食を児童と一緒に食べたり、授業で交流することにより、孤独感の解消を図り、生きがいの創出を目指す取り組み、また、出たもん勝ちといって、外出促進のための情報提供を行うことで心身の機能低下の予防、地域のつながりや生きがいの創出、健康づくり関連施設やサービスの利用促進を図る取り組みなど、行政が主導して予算付けして、職員の中で係長クラスの人を専門員として数々のプロジェクトに取り組んでいるとのことです。

加西市は地域包括ケアシステムにおいて、社協や病院で進められているが、尾道市のように行政を一本化して市民にわかりやすくすべきではないかと思います。

■下関市　　次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について

第一に感じたのは、素晴らしい施設とスタッフの方々の子供に対しての接し方が素晴らしく感じました。

市から指定管理を受けた社会福祉事業団が運営しているのですが、利用状況を見ると県外からも多く来館されています。交通の便もよく、駅の 3 階にあって利便性も良く、屋上は子供が遊べるように人工芝を張り、また安全面も防犯カメラが多数設置してあり、安心して子供を預けられると思いました。

料金も 1 時間からであり、土日に子供をちょっと預けて用事を済ませることもでき、便利な施設であり、加西市でも考えてみてはどうかと思いました。

〔所　感〕　植田　通孝

１．　尾道市　おのみち幸齢プロジェクトについて

尾道市は、急速な高齢化の進展に危機感を抱きつつも、「超高齢化社会」という言葉の持つマイナスイメージを、逆転の発想でポジティブにとらえ、年を重ねることに幸せを感じられる社会の実現を目指すために、組織横断的に若手職員を集めプロジェクトチームを結成し、実現可能性の高い 14 の具体的施策を提言している。

○　健康づくり（介護予防）
① 学校給食へ行こう！
② シルバーリハビリ体操
③ アラ還ピック 2020
④ 目指せ！ウオー王（KING）！
⑤ 出たもん勝ち

○高齢者の生きがいづくり
⑥地域プロデユーサー養成講座
⑦復活！「ばんこ」ミュニケーション
⑧結成！「ばんこ」ミュニティ
⑨幸齢者学校
⑩「幸齢者」保育士さん
⑪笑顔とどけ隊
⑫えんじゃないか農

○安心に暮らすための環境づくり
⑬おのみち見守りネットワーク
⑭運転免許の返納推奨

以上が 14 の提言であるが、実に面白いネイミングであり、何なんだろう一度参加してみようかなと興味をそそる機知に富んだ素晴らしい施策で関心至極であった。説明してくれた担当者が将来市長になれば、面白い尾道ができるであろう。

２．　下関市　次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について

下関駅賑わいプロジェクトの一環として、「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとした市民の交流と子育て支援の拠点施設である。実に色彩感覚が研ぎ澄まされた居心地のいいトレンディな施設であった。加西の根日女キッズのような施設で、さまざまな遊びと学びを提供し、地域の子育て家庭を支援し、市民を結び付け下関を元気にする施設、下関らしさを楽しく伝える素晴らしい施設であった。

〔所感〕丸岡弘満

【広島県尾道市】おのみち幸齢プロジェクトについて

尾道市は、全国・近隣市に比べて高齢化率が 10%ほど高く、市行政の大きな課題の一つであり、市長以下この問題に対し危機感を募らせていました。

また、これまでにも高齢化に対して様々な対策や取り組みをしていましたが、今ひとつ目に見える形での効果が出ていませんでした。

そんな中、副市長から課題を解決するように西門専門員へトップダウンであり、部署を超えた若手職員のチームによって、住みなれた地域で元気でいきいきと暮らすためにと「尾道市超高齢化プロジェクトチーム」が立ち上がり、わずか３カ月で提言書「超幸齢者社会おのみち」という実現可能な施策をまとめたそうです。

特にプロジェクトの結果、住民の健康に対する意識の向上と NPO や各種団体の活性化、若手職員の柔軟な発想を受け入れる職場環境が醸成され、問題を特定の部署だけで抱え込むことなく、全庁的課題として取り組むようになり、現在は、少子化や子供の貧困対策のプロジェクトも立ち上がるなど、職員のモチベーションの向上や意識改革が図られている点にも効果が出ているようです。

今、加西市全体での現状に当てはめて考えてみますと、尾道市程の高齢化率ではありませんが、地域によってはすでに 40%を超え、それに近い地域もどんどん増えています。今後迫りくる超高齢化社会を見据え、加西市でも部署を横断した若手職員によるプロジェクトチームを作り、尾道市のような柔軟な発想で実現可能である高齢者施策を考える必要があると思います。

【山口県下関市】次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について

先ず、施設に着いて感じた事は、「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本とするコンセプト通り、立地（JR 下関駅）の良さや施設内がとても明るく親子が安心して楽しめる遊具の工夫や気軽に行われる相談などの環境が整備されていることに大変驚かされました。

また、一等地であるために、建設経費や管理経費等に随分と多額の費用予算が投入されている感が否めませんが、館長のお話を聞いていますと下関市が未来の子供達や若い子育て世代へ掛ける思いや覚悟が伝わってきました。

そして、現場視察での様子やデータから、ただ単なる遊び場の提供や子供の預かり業務だけでなく、専門スタッフによる育児の悩みや生活上の困難など幅広く相談を出来る体制と積極的な声掛けによって、下関市で安心して子育てが出来るセーフティーネットの役割を大きく発揮していると実感しました。

加西市においても「未来型児童館」の建設構想がありますが、この下関市が取り組んでいる「ふくふくこども館」の実施計画を参考にして、今ある市の既存施設を有効利用すれば、立派な次世代育成支援拠点施設が出来るのではないかと思いました。

行政視察所感　　松尾幸宏

おのみち幸齢プロジェクトについて
１４の具体的施策はユニークなものが多く参考になったが、感心したのはスピード感である。平成２５年８月末に副市長から、超高齢者社会対応策の要請があり、各課連携により９月にはＰＴ規約を作成、１２月には提言、翌年１月からは着手可能な事業から新年度予算に計上。実施に移すためのＰＴを各課から選出により設立した。
まさに、既存の組織での対応の限界（セクショナリズム、柔軟性、スピード感）を打ち破った形になった。それには勤務時間内でもＰＴ職務を遂行しやすい環境づくり、旅費の支給、時間外手当の支給等も貢献したのではないかと考える。
個人的には、地域の高齢者と児童が給食を一緒に食べて交流する
「ふれあい給食事業」を加西市においても検討して頂きたい。

次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について
施設がＪＲ下関駅ビル内、バスターミナルが隣接している、近くに民間の駐車場があるなど利便性の高い立地条件となっている。
公立の児童館との違いは大人も含めて不特定多数の方の入場を受け入れていることにある。親子で遊ぶプレイランドは年間１５万人以上の利用者の約３割が市外の方で、大阪、東京からの来場者もあることには驚く。又子育て相談については、館内を専任スタッフが巡回されており、個別相談、専門相談、電話相談、メール相談と充実している。こども一時預かりは３時間が上限だが、短時間でも育児から解放されることが、子育て中の女性にとって想像以上の気分転換になることを教えて頂いた。
加西市も現在、玉丘史跡公園・ねひめの森に於いて、未来型児童館建設の構想があるが、今回の視察で、規模は相当違うが場所的にはアスティアかさい内での設置も一考の価値があると考える。又、事業計画については、是非「ふくふくこども館」を参考にしていただきたい。